

ニ之ヲ廢止ス

但支那人若ハ支那人ノ血統ヲ有スル者ノ移住又ハ排斥ニ關スル現行法（本法第十九條規定ノ場合ヲ除ク）及千九百五年二月六日第五十八回第三期議會通過ノ法律第四百五十三章第六條ノ規定及千八百八十二年八月二日裁可ノ海上旅客運搬法及其改正（本法第十一條規定ノ場合ヲ除ク）ハ本法ニヨリ廢止變更又ハ改正セラルルコトナシ

尙又本法ノ規定ハ本法第十九條第三但書ニ記シタル場合ノ外本法施行ノ際ニ於テ行ハレ又ハ存在スル告訴、訴訟、審問其他民刑事孰レノ行爲又ハ事物ニ影響ヲ及ボササルモノトス但本法ニヨリ廢止又ハ改正セラレタル法規ハ前記ノ告訴、訴訟、審問、行爲、事物ニ關スル限り引續キ其效力ヲ有スルモノトス

第九章 石井「ランシング」會商ト在米日本人ノ 均等待遇問題

一九一七年五月十二日國務長官「ランシング」ノ招請ニ應シ在米佐藤大使同長官ヲ往訪シタルニ露伊兩國ヨリモ英佛ノ例ニ倣ヒ近々特使ヲ米國ニ送ルコトナレルニヨリ此際日本ヨリモ同様ノ特使ヲ派遣セラルレハ國交上多大ノ裨益アルヘク日米兩國間ニ協定スヘキ事項トシテハ（イ）世界大戰中聯合國側ノ物資ノ冗費ヲ省ク爲供給上ノ取極ヲ爲スコト（ロ）太平洋警備ニ關スル協同動作ヲ取極メ追ツテ米國カ太平洋ニ有スル艦隊ヲ大西洋ニ引揚クルコト等種々アルヘク（ハ）尙時局問題ノミナラス東洋ニ關スル問題ニ付テモ亦打合ヲ試ムルヲ妨ケサルヘシト懇談スル所アリ帝國政府ニ於テハ審議ノ結果先方ノ希望ニ應スルコトニ決意シ同大使ヲシテ國務長官ニ對シ帝國政府ハ米國ノ參戰ヲ欣快トシ且之ニ依テ兩國ノ友情ヲ益緊密ナラシムルコトヲ熱望シ其目的ヲ以テ兩國共通ノ重要問題ニ關シ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ハムカ爲特使ヲ華府ニ派遣スルノ考案ヲ有スル旨ヲ述ヘシメタルニ同長官ハ之ヲ以テ帝國政府ノ友情ノ表彰ト認メ衷心歡迎スル趣旨ヲ述ヘタルヲ以テ日本政府ハ石井子爵ヲ特派使節トシテ派遣スルコトニ決シタリ

帝國政府ニ於テハ石井特使派遣ニ當リ同特使カ米國政府ト討議協定スヘキ事項ニ關シ審議スル所アリタルカ同政府ト(イ)物資ノ供給問題、太平洋警備問題等直接戰爭ニ關係アル諸般ノ案件ヲ協定セシムヘキハ勿論ナルモ(ロ)此機會ヲ利用シ日米親交ノ障礙トナルノ虞アルヘキ一切ノ事態ヲ芟除スル爲支那ニ於ケル日米兩國活動ノ調和ニ關スル問題ト共ニ米國ニ於ケル日本人ノ地位ニ關スル問題ニ關シ切實ニ我所信ヲ披瀝シ彼我ノ間意思ノ疏通ヲ計ラムカ爲米國政府ト商議セシムルコトトシ政府ノ立場ニ付大要次ノ趣旨ノ内訓ヲ與ヘタリ

帝國政府ハ移民ノ米國渡航ニ關スル現行自制的制限ヲ撤廢スルノ意思ナキト共ニ正當ニ米國ニ居住スル日本臣民ニ對シ私權ノ享有及行使上完全ナル最惠國民待遇ヲ要望スルモノナリ之ヨリ先米國政府當局者ハ國內諸州ニ於テ日本臣民ニ對シ他國人ヨリモ劣等ナル待遇ヲ與フルノ不正ナルヲ認メ從來各州州會ニ於テ排日法案ノ提出セラレタルニ方リ隨時帝國政府ノ請求ニ應シテ誠意之カ阻止ニ努メタリト雖モ米國憲法上中央政府ノ權限ヲ以テ有效ニ各州ノ行動ニ干涉スルコトヲ得ス他ノ一方ニ於テ各州ハ國際間ニ獨立國家ヲ形成スルモノニアラサルカ故ニ帝國政府ハ之ト直接交渉シテ其不正ノ行動ヲ責ムルノ便ナシ今ヤ加州ニ於テ土地所有權ニ關シ特ニ本邦人ニ不利ノ待遇ヲ與フル土地法既ニ制定セラレ其他ノ諸州亦往々之ニ倣ハムトスルノ傾向アリ

今日ノ情勢ヲ放任スルハ兩國ノ親善ヲ増進スル所以ニアラサルノミナラス米國中央政府ノ爲ニモ益々困難ヲ加フルニ至ルヘシ既往ニ於テ發生セル問題ハ此際遽ニ之ヲ解決スルコト容易ナラス唯將來ニ向テ難局ノ疏通ヲ圖ラムカ爲ニハ曩ニ珍田大使ト國務長官「ブライアン」トノ間ニ行ハレタル交渉ヲ踏襲シテ兩國間ニ大體次ノ趣旨ノ協約ヲ締結シ米國憲法ノ規定スル國際條約ノ效力ヲ以テ各州ノ行動ヲ掣肘スルノ外ナキヲ信ス

(一) 不動産ニ關スル權利ノ取得享有行使及相續ニ付日米兩國ハ互ニ最惠國民待遇ヲ與フルコト

(二) 産業、職業其他ノ正業ニ從事スルコトモ亦同シク最惠國民待遇ノ基礎ニ置クコト

(三) 會社及組合ニシテ其社員又ハ株主ノ全部又ハ一部カ日米兩國ノ一方ノ國民ニ依リ組織セララルモノハ不動産ニ關スル權利ノ取得享有及行使ニ付會社及組合ニシテ其社員株主ノ全部又

ハ一部カ最惠國民ニ依リ組織セラルモノト同一ノ待遇ヲ受クルコト

(四) 本協約ハ兩國ノ現行法令ニ影響ヲ及ホササルコト

(五) 加州土地法問題ニ關スル帝國政府ノ主張ハ之ヲ留保スルコト

石井特使一行ハ同年七月二十八日橫濱出帆八月十三日桑港ニ着シ同月二十二日華盛頓ニ到着セリ

其滯京中石井特使ハ數次國務長官「ランシング」ト會見シ諸般ノ問題ニ付協議スル所アリタルカ九月十日ノ會見ニ於テ在米日本人待遇問題ニ言及シ將來ニ於ケル排日立法豫防ノ目的ニテ珍田大使「ブライアン」國務長官間ニ一種ノ協定ヲ結ハントノ議アリタルコトヲ述ヘ本問題ニ關シ國務長官ノ意見ヲ徵シタルニ國務長官ハ取調ノ上挨拶スヘキ旨答ヘタルモ其後同長官ハ取調ノ違ナカリシトテ竟ニ意見ヲ表示スルコトヲ避ケタリ帝國政府ニ於テハ兩國ノ親善關係増進上珍田「ブライアン」協定案ノ成立ヲ切望スル所ナリシヲ以テ石井特使ニ對シ同特使離京前國務長官ニ再應懇談スヘキ旨訓電スル所アリシモ同特使ハ國務長官ニ於テハ我所望ヲ諒トスル所アリタルモ當時之ヲ議スルニ好適ノ時機ニアラストノ見地ヨリ更ニ交渉ノ步ヲ進ムルノ意ナキヲ看取シ且周圍各般ノ事情ニ顧ミ必スシモ米國政府ニ本件交渉ヲ強ユルノ利ナキヲ認メタルヲ以テ成ルヘク最近ノ機會ニ於テ佐藤大使ト談話ヲ繼續スル様國務長官ニ希望シ同官ヲシテ之ニ同意セシムルニ止メタリ斯シテ特使ハ支那ニ關スル所謂石井「ランシング」協定ノ取極其他ノ交渉ヲ遂ケタル後十一月三日華府出發歸朝ノ途ニ就ケリ

第十章 一九一七年米國移民法及紳士協約ノ解釋

適用ニ關スル若干問題

一九一七年米國移民法制定後最近ニ至ルマテノ間ニ於テ同法竝ニ紳士協約ノ解釋及日本人上陸禁止ニ關聯シ日米兩國間ニ交渉ノ目的トナリタルモノ尠カラス其中主要ナル問題ハ

- (一) 寫眞結婚婦人竝ニ夫ト同伴セサル妻ノ入國
 - (二) 會社員店員ノ入國
 - (三) 不正入國者ノ再渡航竝ニ其家族ノ呼寄
 - (四) 養子ノ入國
- ニ關スルモノナリトス以下之等諸問題ノ要旨ヲ敘述スヘシ

第一節 寫眞結婚婦人竝ニ夫ト同伴セサル妻ノ入國

一、寫眞結婚婦人ト讀書試驗

一九一七年米國移民法第三條中渡航者ノ妻ニ對スル讀書試驗ニ關シ